



～オンリーワン！ マイバッグを作ろう～

佐賀県神埼市立
千代田西部小学校校長
田中裕子

1 はじめに

佐賀県小学校家庭科部会は、令和3年度の九州大会（誌上発表）を機に、「暮らしを見つめ豊かに創造する児童の育成」をテーマに、「主体的・対話的で深い学び」を実現するために表1の学習過程に取り組み、実践を積み重ねてきた。この「課題設定」→「習得」→「活用1」→「活用2」からなる学習過程は、課題設定から日常生活における実践の一連の過程を踏み、児童自らが問い（課題）をもって知識・技能等を習得し、それらを活用するなかで必要な資質・能力を獲得することをねらいとしている。

2 指導のポイント

本稿では、原口百合子教諭（元みやき町立三根西小学校）の実践である題材「オンリーワン！マイバッグを作ろう（6学年）」を取り上げ、学習過程に沿って児童が身近なことやものと関連付けて身に付けた知識及び技能をどのように作品に生かしていくのかや自分ごととして学習することの大切さや授業にお

いてどのようにして取り入れるかの指導のポイントを解説する。

（1）「題材を貫く問い（課題）」の設定

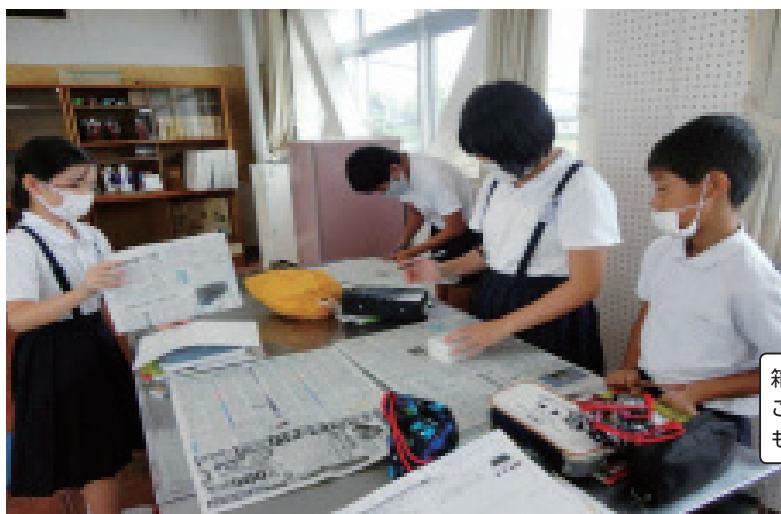
課題設定の場面では、さまざまな具体の布製品を示し、「快適・安全」や「持続可能な社会の構築」の視点から生活を見直すことで、あらためて布製品のよさに気付くようにする。その後、「どんな袋物を作りたいのか、袋物を作るうえで知りたいことや学びたいことは何か」という話し合いを深め、「題材を貫く問い（課題）」を自分たちで作るようにする。その際、学習の見通しを持つことが重要である。

問い（課題）：「自分に必要な袋を作るためには、どんな知識や技能が必要だろう」

～オンリーワン！マイバッグを作ろう～

（2）習得場面における工夫

習得場面では、三つ折りの口あきの縫い方などの理解を深めるために、不織布を使って袋を作る体験を取り入れる。必要な大きさを決めるために試行錯誤し、新聞紙を折ってホチキスで止め、ゆとりや縫いしろの必要性等を実感することが、活用できる知識・技能につながると考える。



箱は入ったけど、このままじゃひもを絞れないな。

出し入れしやすくするには、どのくらいの大きさにしたらいいだろう。

算数で学習した展開図だとぴったりすぎるよ。箱の厚みも考えないとね。

(3) 活用場面 (【活用1】【活用2】) における工夫

【活用1】では、習得した知識・技能を生かして「自分の袋」を作ることに取り組む。型紙を作ったり、縫う順番を確認したりする等の体験的な活動を通して他者と学び合うことにより、活用する力や課題を解決する力の育成を目指している。

【活用2】では、どのように知識及び技能を使えば生活がよくなるかを考え、実践する力を養うために、地域の方にオリジナルの手作り布袋をプレゼントするパフォーマンス課題に取り組む。

対象となる方に事前にリサーチをしたうえで製作し、プレゼントした後に感想を聞くという一連の活動は、課題解決を通して深い理解だけでなく、主体的に学ぶ意欲の向上につながると考える。

(4) 評価の工夫

一連の過程において「資質・能力開発ポートフォリオ」(Web ページ図1 参照。以後、ポートフォリオ)を活用して自己評価活動を強化した。ポートフォリオへの記述によって、児童が各ステップの作品や記述を比較しながら学びを振り返ったり、必要な知識・技能や工夫したことを確認したり、自分の

成長を実感したりするなど、効果的な自己評価が可能となる。また、新たな気づきを得たり、製作で必要なポイントをつかみ、次の製作に臨んだりする自己調整力をつけることにもつながると考える。

3 授業の実際の様子

【活用1 (いかす)】 (5~8時)

弟が好きな絵の布で通園バッグを作ろう

〇型紙を作る



スケッチブックを持ってきて大きさを考えよう。

まちをつけるからもう少しゆとりがあるといいかな。

〇布を裁つ

〇縫う順番を考えながらミシンで縫う

バッグはわきは上までぬうんだね。

ナップサックだからわきを割ってから三つ折りをするんだね。



楽しくソーイング 6 ()

【学習前】 あなたは、今、ミシンを使って、どのよう
なことができそうですか。
布をぬう、まちに糸をぬえる、返しぬい

【問い】 自分に
知識や技能

題材を貫く問い

【学習後】 あなたは、今、ミシンを使って、どのよ
うなことができそうですか。
洋服やいろいろな布をあわせてつくる
座布団を作りたい。

習得

活用1

活用2

制作する時に使った知識や技能

- 口開きどまりの最後の最後までぬうことが大事
- 三つ折りをすると、疲れるので、落として、ポケットを作る。

工夫したこと

- 口開きどまりをコの字形にした時に、手を反対にしないといけないけど、布を反対にしておいたら良かった。
- ポケットをつくる時に、底布を落としてぬって工夫をした。

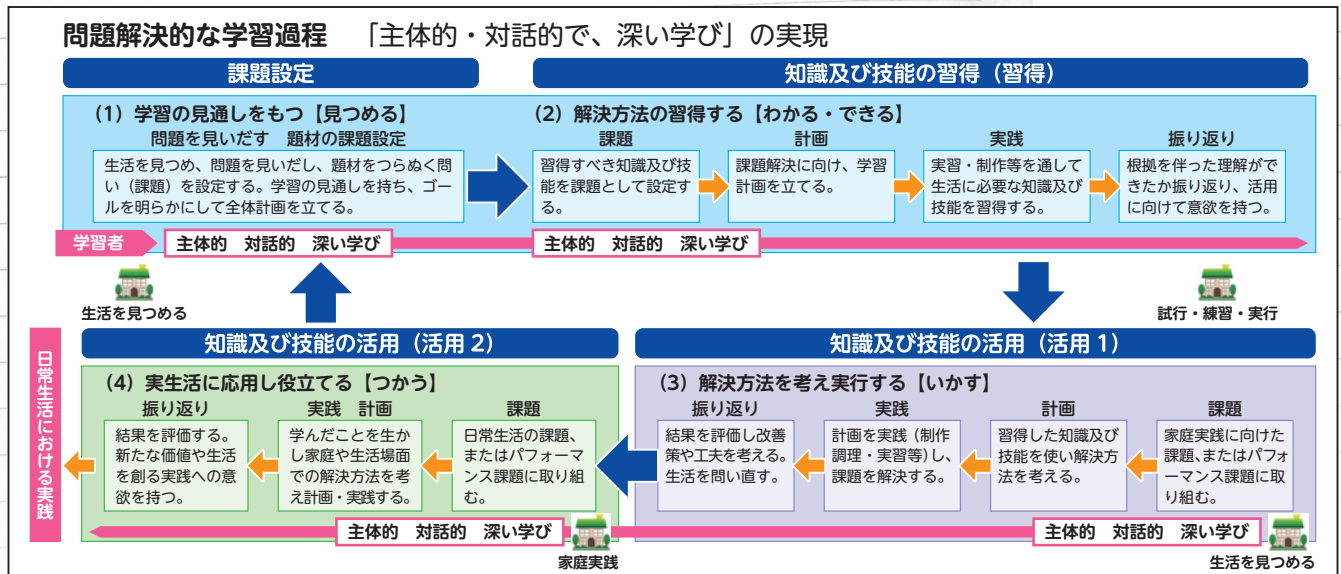
作品① 菓子箱がちょうど入る巾着袋を作ろう。

作品② 弟の通園バッグ(エコバッグ)

作品③ ミニトートバッグ

図1 資質・能力開発ポートフォリオ

表1 佐賀県小学校家庭科部会作成 問題解決的な学習過程「主体的・対話的で深い学び」の実現




前時に学習したゆとりをもたせることや縫いしろを考えて型紙を作るという経験を生かし、自分が作りたい布袋の型紙を作った。新聞紙や不織布を使い、試行錯誤できるようにした。ミシン縫いにおいても袋によって縫い方が違うため、製作過程の相違をグループで確認し合いながら進めていた。

既習の知識及び技能を総合的に生かす場面を作り、実際に地域の方に手作りの布袋をプレゼントしたことは、児童の自信につながり、実践への意欲の向上につながった。本実践により、自分の学びに価値付けがなされ、家庭や地域との深いつながりにも気付くこととなった。

【活用2（つかう）】（10～11時）

パフォーマンス課題
 地域の方に使ってもらえる布袋を作ろう

- どんなものが必要かリサーチをする
 - C: 祖母にどんな袋がほしいか聞いてみたよ。
 - C: 歩く時にスマホケースがあると便利そう。
 - C 使いやすいようにひもの長さを長めにしたほうがいいんじゃない？
- これまでの学習を想起しながら製作する
- 地域の方に手作り布袋を渡す



朝の立ち番に持ってもらううれしいな！

- 地域の方からの感想を児童に伝える



朝の立ち番に持ってもらううれしいな！